

2008年度くずは青葉幼稚園／学校評価



2009年4月

学校法人山口学園
くずは青葉幼稚園

はじめに

幼稚園における学校評価については、平成14年4月に施行された幼稚園設置基準において、自己評価の実施とその結果の公表に努め、保護者等に対する情報提供を積極的に行うこととされた。既に本園ではこれを受け、既に平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきたところである。また、同年10月1日より施行の「大阪府私立学校情報提供指針」により、HP等において積極的に情報公開を行ってきた。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より、新に「自己評価並びに自己評価の公表」に取り組むことにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらいを達成できるよう努力研鑽に励むところである。

幼稚園（学校）評価の目的

本園において、これまで「選ばれる私立幼稚園」として、幼稚園案内や説明会さらに広報活動（HPの活用等）を通じて積極的に情報提供を行ってきた。そして「建学の精神」のもと本園の保育・教育活動を公の教育を担う学校として実践してきた。今後は、これまでの取り組みや反省を基に自らの理念や実践が独善的になることのないよう学校評価に取り組み、質の高い幼児教育が提供できるように努める。

学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。
- ・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告。

自己評価結果の公開

1. 本園の教育目標

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。

2008年度は、それぞれの学年において下記の教育目標を設定し保育に努めた。

年長学年

思いやりの気持ちをもって友だちと関わり、思いを伝えあう大切さを感じるとともに色々な活動に意欲をもち、目標に向かって精一杯取りくむ。

年中学年

集団であそぶ楽しさを味わい、自分の力を発揮しながら何事にも最後までやり遂げる気持ちを持つ。

年少学年

基本的な生活習慣を身につけ色々な活動に意欲的に取り組み、友だちとあそぶ楽しさを味わう。

全学年・幼稚園全体

異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定。

1. 異年齢の友達に親しみを持ち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
3. すずんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

2. 平成20年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針」さらに平成20年度教育目標（教育指針）のもと継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。平成19年度以上に異年齢児同士で活動する教育日数を増加し、その内容を充実させた。また、評価項目に沿って自己点検自己評価を行い、教師自らが客観的に指導や子どもとの関わりを省みて本園教育内容の充実を目指した。

3. 自己評価項目の内容と達成及び取組の状況

本園では、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施しているが、平成20年度においても継続してこれを実施した。以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

分	教員 自己評価項目		園長・主任自己評価項目		
	A	教育方針・指導計画	G	研 修	K
B	健 康	H	家庭との連携	L	保護者支援
C	学級経営	I	表 現	M	地域連携
D	環 境	J	安全・衛生・危機管理	N	財務管理（決算予算）
類	E	言 葉		O	安全管理
	F	人間関係		P	人事管理

教員自己評価

A. 教育方針・指導計画

教育方針・指導計画	1	<p>園の教育方針（教育目標・08年度教育指針）を理解し、指導計画の「ねらい」や「内容」は幼稚園教育要領の精神を踏まえ本園の教育方針に従ったものになっているか。【評価の観点】本園の教育方針教育目標を理解し、それぞれの領域における考え方が指導計画に反映されている【評価基準】A～B. 本園の教育方針・教育目標を理解し、その指導を行い、指導計画のねらいや内容が教育要領を踏まえ本園の教育方針に従ったものになっている。</p>
	2	<p>指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものとなっているか 【評価の観点】幼児期の特徴を理解し、子どもの興味・関心の赴くもの、また友だちとの関係について考慮している。また、担任教員だけでなくそれぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場を教員同士で設けている。 【評価基準】A～B. 子どもの発達の姿に配慮した指導計画のもと全教員で多面的に捉えている。</p>

B. 健康

健 康	1	<p>子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか 【評価の観点】子どもが安定感を持って行動できるよう教員との信頼関係が築けるよう心がけている。また園内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている。 【評価基準】A～B. 子どもがのびのびと活動し、充実感が味わえるように工夫している。</p>
	2	<p>子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか 【評価の観点】子どもの目が自然と戸外に向くように、室内から戸外への動線が連続するようにしている。【評価基準】A. 広い園庭を十分に活用し、配慮や工夫をしている。</p>
	3	<p>子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている【評価の観点】子どもがどんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解し、日々の保育が特定の活動に偏る事の無いように計画している。 【評価基準】A. 十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている。</p>
	4	<p>健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか 【評価の観点】遊びや食事の時間、生活のリズムを安定させ身につけていける指導を行っている。また、危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。【評価基準】A. 工夫している。</p>

C. 学級経営

学 級 經 営	1	<p>個々の子どもの心身の状況を把握したり、配慮しながら保育をしているか 【評価の観点】登園後や降園前に視診をして、子どもの心身の状況を把握している。アレルギー疾患などを把握して、個別な配慮をしている。【評価基準】A. 十分配慮している。</p>
	2	<p>指導計画（長期・短期）を振り返り、評価・反省を行うとともに、教師としての子どもへのかかわり方なども日々振り返り、明日の保育へ生かせるようにしているか【評価基準】A～B. 毎日振り返り、明日への保育に生かせるようにしている。</p>

D. 環境

環 境	1	<p>身近な環境に親しみ様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか 【評価の観点】園内の自然環境を整備し、子どもが植物に接する機会をつくっている。季節感のある素材を保育に活用したり、季節にあわせた室内環境を工夫している。子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。【評価基準】A. 工夫している</p>
	2	<p>幼稚園全体の環境構成に十分配慮しているか【評価の観点】自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。【評価基準】A. 十分工夫している</p>
	3	<p>子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか 【評価の観点】子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意している。子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。子どもがじっくり遊べる時間を確保している。【評価基準】A～B. よく整備している。</p>
	4	<p>子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか 【評価の観点】子どもの遊びや活動の広がりや臨機応変に対処するよう心がけ、その日の子どもの活動の様子を振り返りながら、翌日の環境を整えている。【評価基準】A. 十分に配慮や工夫がされている。</p>

E. 言葉

言葉	1	<p>子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか 【評価の観点】子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。またスキンシップなどを通して心情を読み取っている。【評価基準】A～B.十分に受け止めている。</p>
	2	<p>子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか 【評価の観点】グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進めていけるような機会を設けている。戸外遊びや自由遊びなどの時間を設けている。子どもたちで解決できそうな場合は、教員が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。【評価基準】A.工夫している</p>
	3	<p>子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行えているか【評価の観点】教員が率先して挨拶をし親しい雰囲気をつくり、挨拶の大切さや意味を子どもたちに伝えている。【評価基準】A.進んで行っている。</p>
	4	<p>絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか【評価の観点】子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。行事や季節、また学年に応じたものを選んでいく。落ちついた、ゆったりした時間の中で、絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。【評価基準】A.積極的に取り入れている</p>

F. 人間関係

人間関係	1	<p>子どもが自分で行動・活動することの充実感を味わえるような援助を行っているか【評価の観点】子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように教員が身近にいる。集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。【評価基準】A～B.援助を行っている。</p>
	2	<p>保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか【評価の観点】トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助し、友だちに自分の思いを伝えようとしている子どもに対して、見守ったり必要な援助をしている。教員や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考えたりする機会を設けている。異年齢児との交流の機会をしっかりと設けている。【評価基準】A.援助や機会を設けている。</p>
	3	<p>園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか【評価の観点】子どもたちが社会的ルールを身につけていくよう配慮している。当番活動を日常生活の中で行い、異年齢児との交流を行っている。友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行なっている。【評価基準】A.指導を行い、機会を設けている。</p>
	4	<p>2008年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか【評価の観点】本園教育課程を理解し学級の園児以外にも多く関わった。異年齢児の存在を認識することから、段階的に園児に助言、指導したか【評価基準】A.十分に助言、指導した。</p>

G. 研 修

研 修	1	園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか 【評価の観点】園長・主任をはじめとし、教員同士コミュニケーションをよくとり、他の教員の助言や保育技術を参考にしている。【評価基準】A. 自己の課題や園全体の課題について見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。園内で「研究保育」を実施した。また、外部の研修会に積極的に参加した。
	2	教材の研究、題材の研究をその活動ごとにはまたは、定期的に行ったか。 【評価の観点】定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について研究したか。【評価基準】A～B. 「教材研究」を日頃より留意し保育に生かしている

研修実績

	研修日時	研修内容	研修主宰者・参加者
1	2008年 5月17日	発達障がいの早期発見のポイント	大阪医科大学LDセンター / 園長、主任他4名
2	2008年 8月18日～	劇あそび・運動あそび研修	日本幼年教育研究会 / 教員3名
3	2008年 8月30日	幼稚園での言葉の指導	大阪医科大学LDセンター / 園長、主任他8名
4	2008年12月22日	教員免許更新制度に関する研修	大阪府教育委員会タ / 主任
5	2009年 3月26日	大阪府私立幼稚園教育研究大会	大阪府私立幼稚園連盟 / 園長、主任他8名

H. 家庭との連携

家 庭 と の 連 携	1	子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか 【評価の観点】日常の様子などは電話などを活用している。けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」その他の文書で伝えている。保育参観等においても、保育内容をより理解してもらえるようにしている。【評価基準】A～B. 十分工夫しているが、不十分な面もあったことを省みている。
	2	保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。 【評価の観点】保護者の相談や質問には丁寧に対応し、個人面談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。また、行事（運動会等）の感想・意見を聴いたりしている。【評価基準】A～B. 情報交換が行われ、望ましい子どもの発達のために家庭との連携をとっているが、より連携をめざすべきであると省みた。

I. 表 現

表 現	1	子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか 【評価の観点】子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教員が受け止め共感している。子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。【評価基準】A～B. 意欲を受け止め、また配慮している
	2	子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられているか 【評価基準】A. 日常的に機会を設けている。
	3	身体を使った様々な表現あそびが取り入れられているか 【評価基準】A. 十分取り入れている。

J. 安全・衛生・危機管理

安全・衛生・危機管理	1	室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。 【評価の観点】遊具・設備備品・保育室内・園庭等戸外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストや対応マニュアルを作成し運用している。事故や怪我の報告書などがあり、それをもとに再発防止に努めている。【評価基準】A. 日々の点検や定期的な点検改善を行っている。
	2	緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか 【評価の観点】緊急時行動に関するマニュアルを作成し、職員に周知徹底、理解把握している。通報先（警察等外部）にすぐに連絡ができるようにしている。職員への連絡連携が取れる体制になっている。非常ブザーや防衛スプレーなどがあり、すぐに使えるようにしている。消火器の位置を把握し、使い方を理解している。【評価基準】A. 敏速に対応できるように体制を執っている。
	3	薬品の取り扱いに十分配慮しているか 【評価の観点】薬を飲ませる場合は保護者の依頼を受けている（与薬届）救急箱の置き場所・配置に配慮している。子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教員にも周知されている【評価基準】A. 十分配慮している。
	4	飲食物の保管は低温・低湿度の場所で行っているか、また保管場所に外部の侵入者が入れないようにするなどの配慮をしているか 【評価基準】A. 配慮している。
	5	園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか 【評価の観点】園庭、遊具や玩具が使いやすいように工夫されている。【評価基準】A. 常に清潔・安全に注意し整理整頓している。

園長・主任 自己評価 （一部の項目は重複する場合があるが自己評価者が園長・主任となる）

K. 教育内容 [教育課程・研修]

教育内容 (教育課程・研修)	1	各学年の指導計画が、園児の実体に即したものになっているか把握し、定期的に話し合い、園長・主任が指導助言できる体制がある。 <評価基準> A. その教務体制があり実践している。
	2	個々の子どもの状況について話し合う会議等が定期的かつ必要に応じて開ける体制がある <評価基準> A. 定期的に行う会議を含め、必要に応じて開ける体制があり、園長・主任が教員からの意見を定期的に聞き、保育内容や運営の改善に生かしている。
	3	園の教育理念や教育方針が明文化され、教員会議等、機会あるごとに教職員に周知するための取り組みを行っている。 <評価基準> A. 園の教育理念や教育方針が明文化され、教員会議等で話をしたり、文書ににして配付するなど、教職員に周知するための取り組みを行っている。
	4	教職員が自分の課題を把握しその課題を達成できるような指導体制をとっている <評価基準> A. 教員が自分の課題を把握できるように自己評価や相互評価をできる機会を確保し、課題を達成できるよう、園長・主任が指導（援助）できる体制をとっている。
	5	園内研修などを企画し、研修の内容を自園の教育理念に沿った形で日々の保育に生かせるようにしている。 <評価基準> A. 教員の意見を取り入れながら、園内研修・研究保育を企画し研修の内容を自園の教育理念に沿った形で日々の保育に生かせるようにしている

K. 教育内容 [環境構成・行事等]

教育内容 (環境構成・行事)	1	子どもが様々な活動や体験をするのに適切な環境が整備されている <評価の観点> 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。子どもが友達と関わって活動を展開するのに必要な遊具や用具、素材が用意されている。身近な自然や社会と関わられるような配慮がされている。子どもが自発的に活動できる環境が整備している。 <評価基準> A. 子どもが様々な活動や体験をするのに適切な環境を整備している。
	2	個々の行事について、子どもの成長を第一に考えながら実践し、子どもの実態、ねらい等について教職員と十分に話し合っている。 <評価基準> A. 個々の行事についてねらい等について十分に話し合っている。
	3	保護者の意見も取り入れながら、行事の見直しを行っている <評価基準> A. 行事の後にアンケートを取るなど保護者からの意見も取り入れ見直しを行っている。
	4	個々の行事についての意図や子どもの育ちを感じてもらおう観点を保護者に伝え、理解を得ている。 <評価基準> A. 観点を保護者に伝えるために文書や言葉で伝え、理解を得るようにしている。
	5	担任と協力し、園長・主任が担任とは違う立場で子どもと直接関わる機会を設けている。 <評価基準> A. 保育の中身(流れ)をよく理解し担任と協力して、行事や日々の保育で子どもたちと十分に直接関わり、子どもの育ち・実態を理解している。

L. 保護者支援

保護者支援	1	園と連携を図るため保護者会などの支援組織と連携を執っている(父母会) A.
	2	保護者に教育や子育てに関する情報を提供し、啓発に努めている <評価基準> A. ホームページや文書により、情報提供し啓発に努めている。
	3	発達・育児について、保護者との共通理解を図るための機会を設けている。また子どもの様子や保護者からの依頼、対応など、教員で共通理解を図る体制がある <評価の観点> 日々の保育や懇談会等に知り得た子どもの様子や保護者からの依頼・意見に対し、対応する体制を執っている。また教員間で共通理解を図り、教員会議などにおいて情報を共有し、対応策を考えている。 <評価基準> A. 懇談会に加え、保育参観など保護者も一緒に参加できる行事を行ない、発達・育児について共通理解を図る機会を設けている。保護者の依頼についても教員で共通理解を図っている。
	4	保護者からの意見や質問、相談は速やかに聞き、返答している <評価基準> A. 教員が自分勝手な判断で返事せず、園長・主任に相談し把握した上で、返答している。
	5	保育中のけがや病気は、すみやかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上通院するなどの対処法がととのっている <評価基準> A. 適切に対応・対処している。マニュアルの有無にかかわらず、全教職員に周知徹底されている
	6	預かり保育や長期休暇中の保育を実施し、家庭や育児の補完をしている <評価基準> A. 輪番で教師が担当し、子どもの心身の状態や、通常保育との関連、保育人数を配慮しながら、預かり保育や長期休暇中の保育を実施している。

M. 地域連携

地域連携	1	子育てや教育に関する理解や協力が得られるよう地域や学校と連携活動を行っている <評価の観点> 園舎・園庭、空き教室等を開放し、地域や園に通う親子が交流し、子育てや教育に理解や協力が得られる活動を行っている。園での子育てや教育に関する情報提供をしている。 A ~ B . 取り組んでいる
------	---	---

N. 財務管理 [決算・予算]

財務管理	1	予算作成について、基準があり、園の方針や特色を反映している。また決算内容について今後の改善点も含め十分に把握できている。 【評価基準】 A . 決算書について説明ができ、今後の改善点を明示できる。
	2	3 ~ 5年後の園の姿を想定できる中期的な財務計画を持っているか 【評価の観点】 5年先までの予算を作成している。またそれに見合う経営方針・経営戦略を持っている。【評価基準】 A . 中期的財務計画がある

O. 安全管理 (教員自己評価と重複する項目あり)

安全管理 (施設・衛生)	1	外部侵入者・来訪者等に対する安全対策が出来ているか <評価の観点> 出入口等でのチェック体制 (監視カメラ等) が整えられている。教員に電子笛を携帯させる等の対策を講じている。緊急対応マニュアルがあり、教職員に周知徹底している。 <評価基準> A . 対策を十分に講じ、教職員にも危機意識を共有化している
	2	施設・設備に対する安全対策が出来ているか <評価の観点> 施設・設備が園児の活動・安全に配慮した配置になっている。消防 (定期点検・消防計画・避難訓練・防火管理者) に関する安全対策が出来ている。施設・設備の安全点検管理票があり教職員に周知徹底し、定期的にチェック・補修等を行っている。 <評価基準> A . 施設・設備の状況を把握し、適切な補修・改善等を実施している
	3	衛生に対する安全管理が出来ているか <評価の観点> 厨房の衛生管理に配慮し、給食日誌等を備え、給食については「検体」を執っている。園庭・園舎 (遊具・砂場・トイレ) のチェック体制が出来ている (記録・定期検査) 園児の健康診断を実施している (台帳がある) 感染症等について教職員が共通の認識を持っている。保護者に対して手紙を配付するなどして園児の衛生管理を啓発している <評価基準> A . 衛生に対する管理体制が執り、教職員にも意識・徹底している
	4	園児に対する安全管理が出来ているか <評価の観点> 一年を通してケガや事故の起こりやすい時期・場所を教員が把握し、事故防止に努めている。ケガをした場合のマニュアル (病院搬送・保護者への対応等) がある。ケガや事故の報告書を作成し、再発防止に生かしている。薬を飲ませる場合のマニュアル (与薬届) がある。日本体育・学校健康センターに加入している <評価基準> A ~ B . 教職員全員が園児の安全確保に配慮し、事故防止に努めているが残念なことに若干名の園児が怪我を負うこととなった。

P. 人事管理

人事管理(その他)	1	教職員の健康管理を行い、積極的に保育に取り組める様になっている。 【評価の観点】 定期健康診断を実施している。 健康管理の指導をしている。【評価基準】 A. 十分出来ている。
	2	定期的にかつ必要に応じて会議や研修会・ミーティング等を実施して、園長・主任と教職員とのコミュニケーションをとっているか。 【評価基準】 A. 園の方針・教育界の動向等を伝えるための会議や研修会を実施し、また教職員の意見を聞くための個人面談・グループ面談等を行っている。
	3	教職員の資質を向上させるような取り組みをしている。 【評価の観点】 信頼される人として、良識やマナーについて確認する機会を実施している。 教員各々その経験や実力に応じた仕事ができるよう指導したり、環境を整えたりしている。【評価基準】 A～B. ほぼ出来ているが十分でない点もある。

A・B・C・Dの4段階自己評価

A	十分、達成されている
B	達成されている
C	取りこんでいるが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的評価は「AまたはA～B」と教員全員が共通認識した。

年度当初（2008年度）に全教職員が取りくむべき目標について、共通理解し指標とした。そして、教員それぞれが、定期的かつ日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育方針がより確固たるものとなり、教員の資質向上につながった。今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し努力する姿勢を位置づけた。

5. 今後取り組むべき課題

各項目のより達成度を高めるよう、今後（2009年度）において努力することを第一の課題とした。また、それぞれの領域（各項目）の連携的な指導・援助が重要であり特に「人間関係」「異年齢児活動」を重点的課題とすることを共通認識した。その人間関係の中で「協同性＝友だち（子ども同士）と話し合う中でのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）の思いに気づく環境や指導と援助のあり方を真摯に見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法並びに継続して取りくめる環境について努力研鑽に励むことを課題とした。

新教育要領の改編により、それに基づいた指導計画の作成のために、現在までのものに訂正、加筆をさらに加え幼稚園をとりまく環境や子どもの実態に即した指導計画の編纂に取りくむことを課題とした。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

財務状況は、少子化（園児減少）により、厳しいものの監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

**2008年度 / 平成20年度 くずは青葉幼稚園における
学校評価について 以上の通り公開します。**

2009年4月20日

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

園長 **山口尚志**

公印略